

2014年4月21日

「IMD情報センター」設立のお知らせ ～侵襲性髄膜炎菌感染症の関連情報を発信～

サノフィ株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:ジェズ・モールドینگ、以下「サノフィ」)は、侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD: Invasive Meningococcal Disease)の啓発を目的とした情報提供を行うため、4月21日付で、サノフィパスツールワクチン事業部が「IMD情報センター」を設立したことをお知らせいたします。

IMDは、髄膜炎菌(*Neisseria meningitidis*)によって引き起こされ、罹患率は低いものの、時として発症から24～48時間以内に患者の5～10%が死に至ることがあります¹。回復した場合にも、11～19%の割合で難聴、神経障害、手足の切断などの生涯続く後遺症が残ると報告されています²。

2010年、厚生労働省は「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」における審議で、侵襲性髄膜炎菌感染症予防ワクチンは医療上の必要性が高いと判断しました³。厚生労働省の判断を受け、サノフィは2013年3月、国内で初となる、髄膜炎菌ワクチン[海外での販売名:Menactra、一般名称:髄膜炎菌(血清型A、C、Y及びW-135)多糖体ジフテリアトキソイド結合体ワクチン]の製造販売承認申請を行い、現在、早期の承認取得を目指しています。

海外ではIMDの予防に髄膜炎菌ワクチンが使用されており、サノフィパスツール社(Sanofi Pasteur SA.)は、現在までに世界50カ国において髄膜炎菌ワクチンを提供するとともに、IMDの啓発活動にも力を入れています。特に米国においては、全米養護教諭協会(National Association of School Nurses)とサノフィパスツール米国支社(Sanofi Pasteur Inc.)がVOICES OF MENINGITIS™という患者会を設立し、患者とご家族によるIMD啓発活動をサポートしています。この度サノフィは、サノフィパスツール社の海外における啓発活動の経験を元に、日本で初めてIMDに関する情報提供を行う団体として、「IMD情報センター」を設立しました。

IMD情報センターは、海外の患者会をはじめとする様々な団体・組織と連携し、IMDに関する日本や世界の最新情報を、医療関係者、教育関係者、そして広く一般の方々に向けて発信していきます。具体的にはIMDに関する啓発資材の作成、専用ホームページの運用、毎年4月24日の世界髄膜炎デーに向けた各種啓発企画・イベントの実施などを行う予定です。

サノフィは、IMDの脅威から1人でも多くの方々を守るために、疾患理解を深める情報を提供し、日本の公衆衛生に貢献してまいります。

以上

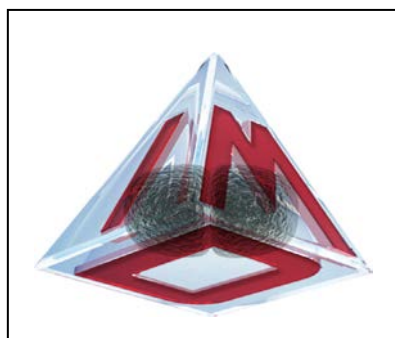


IMD 情報センター概要

名称	IMD 情報センター 事務局
主催	サノフィ株式会社
後援	VOICES OF MENINGITIS™ (在米 IMD 患者会)
設立	2014 年 4 月 21 日
所在地	〒107-6033 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル 33 階 私書箱 562 号 IMD 情報センター事務局 株式会社プラップジャパン内
受付時間	平日 10:00 ~ 17:00
連絡先	電話 / FAX: 03-4570-3173 MAIL: imdooffice@imd-vaccine.jp
ホームページ	www.imd-vaccine.jp

活動内容

IMD 情報センターは、海外の患者会をはじめとする様々な団体・組織と連携し、侵襲性髄膜炎菌感染症 (IMD: Invasive Meningococcal Disease) に関する日本や世界の最新情報を、国内の報道関係者、教育関係者、医療関係者、そして広く一般の方々に向けて提供します。IMD に関する啓発資料の作成、専用ホームページ(www.imd-vaccine.jp)の運用、毎年 4 月 24 日の世界髄膜炎デーに向けた各種啓発企画・イベントの実施を行っていく予定です。



IMD 情報センターロゴマーク

侵襲性髄膜炎菌感染症 (IMD: Invasive Meningococcal Disease) について

IMDは、グラム陰性好気性双球菌である髄膜炎菌 (*Neisseria meningitidis*) によって引き起こされる侵襲性感染症で、菌血症(敗血症なし)、髄膜炎を伴わない敗血症、髄膜炎、髄膜脳炎の 4 つの型があります⁴。髄膜炎菌は、健康なヒトの鼻咽頭からも低頻度ながら分離され、飛沫感染で伝播します⁵。また、有する多糖体莢膜の違いにより、少なくとも 13 種類の血清群が確認されており、感染のほとんどは、血清群A,B,C,YおよびW-135 により起こるとされています⁶。髄膜炎菌は細菌性髄膜炎を起こす他の細菌と比べて 100 倍から 1000 倍の内毒素を産出するため、症状が急速に進み、治療開始のわずかな遅れが致命的な結果となる場合があります⁷。IMDの初期症状は発熱、頭痛、嘔吐など、風邪と似たような症状が主で、皮下出血(紫斑)、項部硬直、



羞明、精神錯乱、けいれん発作、意識不明などの典型的症状は遅れて出現することから、早期の診断が難しいとされています⁸。IMDは、適切な治療がなされた場合でも、24～48時間以内に患者の5～10%が死に至ることが報告されており⁹、回復した場合でも、11-19%の割合で難聴、神経障害、手足の切断などの生涯続く後遺症が残るとされています¹⁰。

サノフィ株式会社について

サノフィ・グループは、フランス・パリに本社を置きグローバルに多角的事業を展開するヘルスケアリーダーです。世界100カ国に11万人以上の社員を擁するサノフィは、糖尿病治療、ヒト用ワクチン、革新的新薬、コンシューマー・ヘルスケア、新興市場、動物用医薬品、新生ジェンザイムの7つを成長基盤として、患者さんのニーズにフォーカスした治療ソリューションの創出・研究開発・販売を行っています。サノフィは、パリ(EURONEXT: SAN)およびニューヨーク(NYSE: SNY)に上場しています。

日本においては、約2,700人の社員を擁するサノフィ株式会社が、「日本の健康と笑顔に貢献し、最も信頼されるヘルスケアリーダーになる」をビジョンに、医薬品の開発・製造・販売を行っています。詳細は、<http://www.sanofi.co.jp>をご参照ください。

サノフィパスツールについて

サノフィパスツールはサノフィ・グループのワクチン事業部門で、毎年10億回接種分以上のワクチンを提供し、世界中で5億人以上の人々に対してワクチンの接種を可能にしています。ワクチン業界における世界的リーダーとして、サノフィパスツールは、20種類もの感染症から人々を守る、世界で最も幅広いワクチンの製品ラインアップを提供しています。「命を守るワクチンを創る」という会社の伝統は、一世紀以上の歴史を有しています。サノフィパスツールはワクチンに特化したメーカーとして世界最大級の企業であり、日々、研究開発に100万ユーロ以上を投資しています。詳細は、www.sanofipasteur.com または www.sanofipasteur.us を参照ください。

お問い合わせ先：
IMD 情報センター事務局
(株式会社ブラップジャパン内)
電話/FAX: 03-4570-3173
www.imd-vaccine.jp

1 World Health Organization Meningococcal meningitis Fact sheet No.141, Nov.2012. <http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs141/en/>

2 Rosenstein NE et al: N Engl J Med 2001; 344(18):1382

3厚生労働省:医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議での検討結果を受けて開発企業の募集又は開発要請を行った医薬品のリスト
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/kaihatsuyousei/index.html

4国立感染症研究所感染症疫学センター病原微生物検出情報 月報Vol.34,No.12(No.406)

5国立感染症研究所感染症疫学センター病原微生物検出情報 月報Vol.34,No.12(No.406)

6 Harrison LH et al: Vaccine.2009 ;27(Suppl.2) :B51-63

7林英夫、岩本愛吉、神谷茂、高橋秀実 監訳:ブラック微生物学第2版, P761, 丸善, 東京, 2007

8 Thompson MJ et al: Lancet, 2006 ;367 :397-403

9 World Health Organization Meningococcal meningitis Fact sheet No.141, Nov.2012. <http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs141/en/>

10 Rosenstein NE et al: N Engl J Med 2001; 344(18):1382